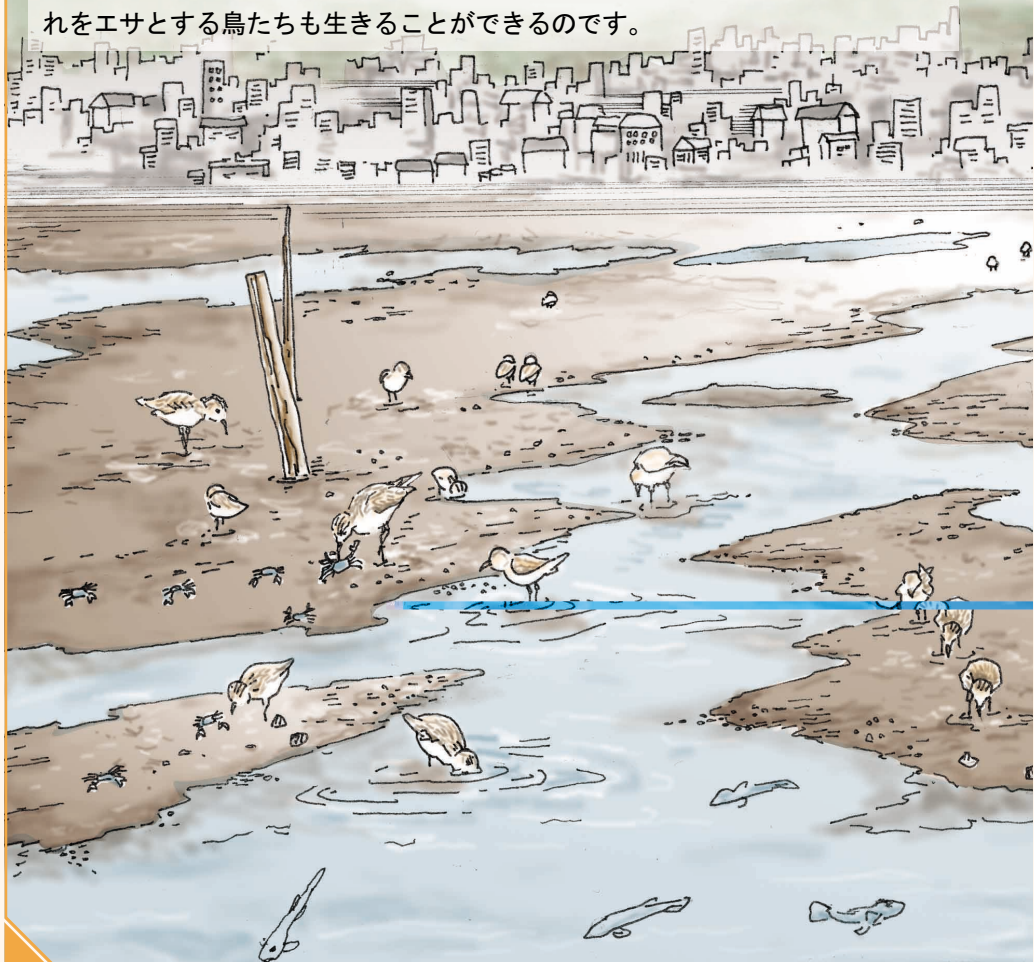


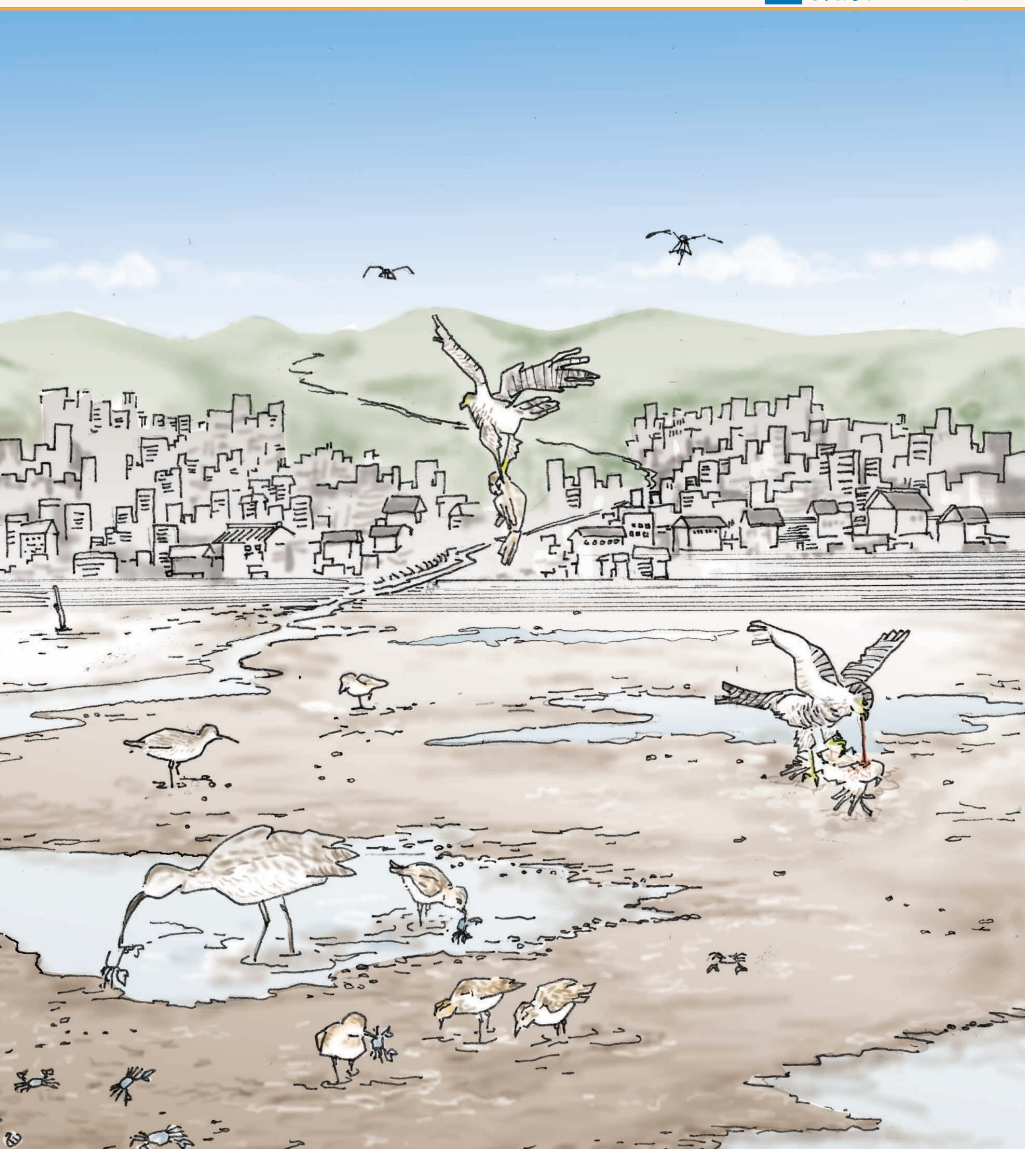
コラム 5

干潟とそこにすむ生きもの

河口にはなぜこんなに生きものが多いのでしょうか？

河口は、川が上流から多くの土とともに草や木の葉などを運んできて、海へ流れ出る場所です。河口付近では流れが緩やかになるので、これらの栄養分(有機物)は土とともに川底に沈み、そこにたまって干潟を形づくりま^{ひがた}す。み^{ゆうきぶつ}た目は黒くてきれいではありませんが、有機物が多く含まれるために、これらの有機物をエサにするカニやエビ、貝、ゴカイなど多くの小動物がたくさんすみ、また、それをエサとする鳥たちも生きることができるのです。





ひがた
干潟は人間の役にたたない、きたない場所と思われてきましたが、最近の研究で、川や海の水をきれいにする大きな働きがあることがわかってきました。また、ひがたにしかすめない多くの生きものの存在も、より注目されるようになりました。ひがた干潟を守ろうという運動が全国に広がっていますが、それにはこのような理由があるのです。いつまでも守っていききたい環境です。